



號十二第聞新育教

日六十月十年一十治明

目次

教員待遇論

フレデリック・ブ
ツネ氏家中教育論

教育上の手簡

阪府第六番中學校
開業式生徒の祝文

雜報



始

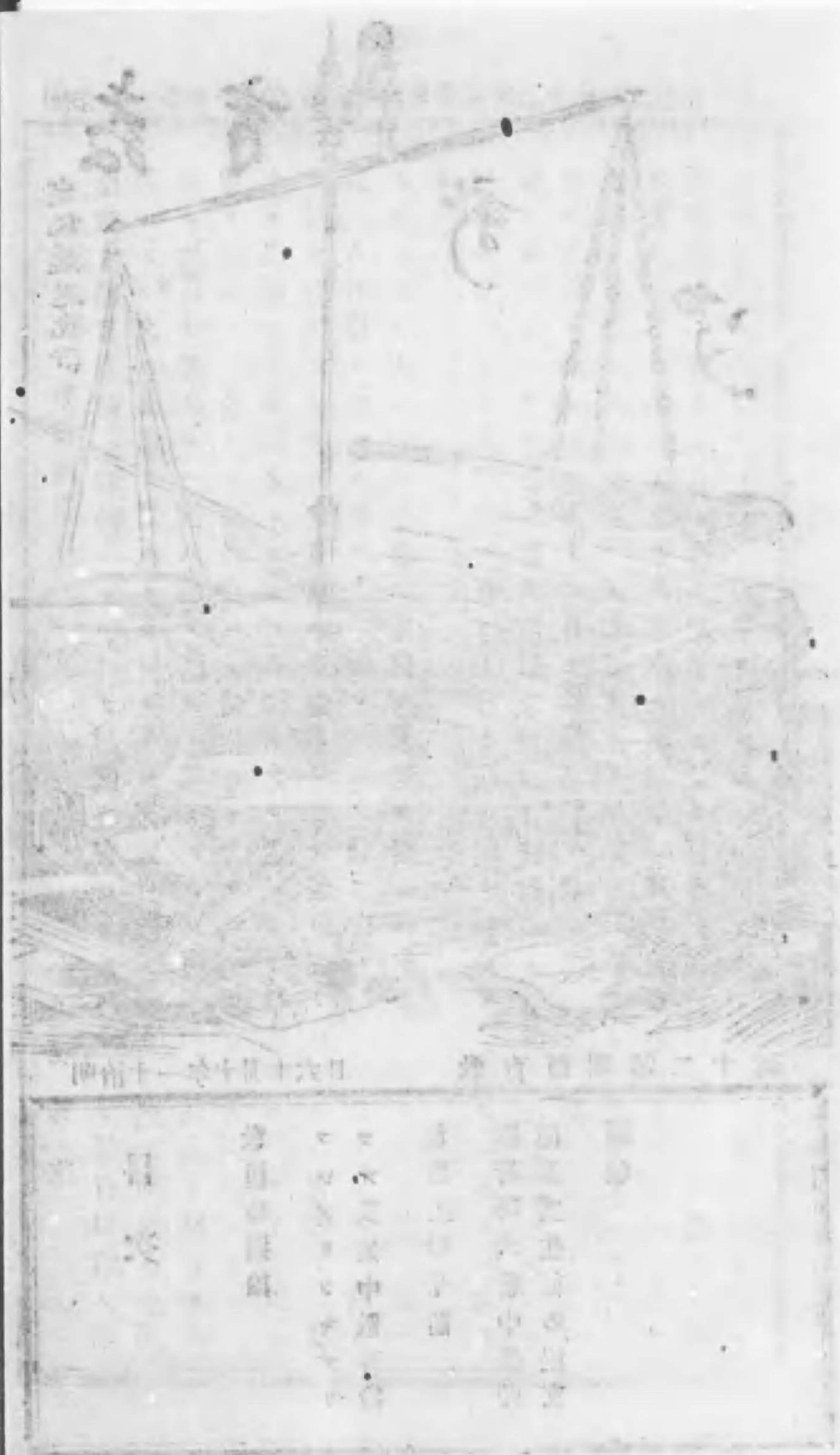


教員待遇論

彼我喜生

覆載ノ間有用の物品ニシテ之ガ眞價ヲ有セサルモノナク不有用の物品ニシテ之カ眞價ヲ有スルモノナキハ天地自然ノ理ナリ然リ而又不有用の物品ノ爲メハ世人價ヲ欲フテ欲セスシテ有用の物品ノ爲メハ價ヲ欲ハント欲スル是亦自然ノ常情ナリ之ヲ約言スレバ有用のモノハ必ス眞價アリ眞價アルモノハ人必ス之ヲ購ハント欲スルモノナリ是故コ千里ヲ馳スルノ能アル馬ハ死骨猶千金ヲ價シ夜ヲ輝カスノ光明アル美玉ハ人万鎰ヲ惜マヌシテ之ヲ得ンコトヲ欲ス由此觀之則眞正教師ノ眞價ヲ有スルノ人ニシテ至當ノ地位ト報賜ヲ得ルコトナキカ如キハ必無ノ事ナリ

然ルコ今我輩教育社中ニ在リテ往々頗ル聞ク好マサル所ノ一事ノ耳朶ヲ穿テ來ルモノアリ即チ世人教師ヲ待ツノ禮薄クシテ其報酬ノ些少ナル一身ノ衣服モ弁スルコ足ラヌ吾レ教師ノ職ヲ執ル故ニ此ノ窮ニ至ルト云フ悲嘆ノ聲是ナリ今此開明ノ先導者タル教師ニシテ此言ヲ發セシムルコ至ル吾人ノ不幸其幾何ソ邪此言ノ一回我輩ノ耳竅ニ到達スルヤ決シテ之ヲ馬耳風視ス可キモノニ非ス飽ク迄モ是カ原因ヲ探究シテ世人ノ迷夢ヲ攪起シ世人ニ向フテ一層ノ厚遇ヲ要求セサル可カラズ然リト雖亦人ヲ責ル



ノ厚フシテ自責ムルニ薄キハ人情ノ免レ難キ所ナレハ尤精詳ニ之カ原因
ヲ探究セサル可カラサルナリ
是故ニ我輩ハ先ツ現今ノ教師ナル者ノ才學ハ如何ナルカ其行爲ハ如何ナ
ルカヲ觀察スルヲ以テ第一着トナシ世人ニ優待ヲ要求スルヲ以テ第二着
トナシ第一着ナルモノヨリシテ漸次ニ第二着ノ者ニ説キ及サント欲スル
ナリ
抑真正ノ教師ハ勇往果敢百折不撓ノ剛志ナカル可カラス其學術德行高尙
深邃ナラサル可カラス亦教授ノ正法ニ練達セサル可カラス以上ノ如クナ
ルモ尙未タ以テ真正ノ教師ト謂フ可カラス元來教育ノ事タル一大活動物
ニシテ終始進ミテ止マサルコト恰工藝製造諸業ノ歲月ヲ趁フテ進善ニ赴
クカ如シ故ニ真正教師ノ職ヲ執ルニ當リテハ當初此地地位ニ至ラント欲ス
ルノ時ニ於テ費シタル犠牲ニ愈ル所ノ耐忍努力ヲ以テ將來ニ於テ教育事
業ノ改進ヲ圖ラサル可カラス都テノ事守成ノ勤勞ハ創業ノ勤勞ヨリ多キ
ヲ要スルモノニシテ若シ守成ノ努力創業ノ努力ニ及ハサルキハ初性命ヲ
犠牲ニセシ程ノ事業モ烏有ニ屬ス可シ今近ク之カ照例トナル可キモノハ
一二ヲ舉示ス可シ彼第十六世紀ニ於テ英吉利ノ革命及第十七世紀ニ於テ
佛蘭西ノ革命是ナリ當初英佛國民カ自主自由ヲ得ント欲スルノ熱心ヨリ

シテ我性命ヲ犠牲ニシ購ヒ得タル至貴至重ナル自主自由ノ權利モ國民善
後ノ耐忍努力ニ乏シキヲ以テ一層以前ニ超越スル所ノ抑壓專制トハナリ
タリキ
凡テ始アリテ終リナキトキハ其結果大概此ノ如ク然リ是以テ教師タルモ
ノ師範學校等ニ於テ僅ニ一ケ年及至二ケ年間位ノ修學ニテハ何程在學ノ
間勵志學ヲ勉ムルモ未タ決シテ真正ノ教育者トハ謂フ可カラス必スヤ終
始努力ト耐忍ヲ保持シテ日一日月一月ニ教育事業ヲ改進シ然ル後初テ眞
正ノ教師トハ謂フ可クシテ又世人教師ヲ待遇スル厚薄ノ論ニ及フ可シ
斯ク我輩カ說出セハ現今全國數万ノ教師中ニハ一人ノ真正教師其人ナキ
カ故ニ世人ノ之ヲ待ツヤ薄シト云フカ如ク聞ユレモ全ク然ルコアラズ元
是教授者ト被教者ニ於テハ自ラ主客ノ關係アルモノニシテ教授者ハ主ニ
シテ被教者ハ客ナリ故ニ主ナル教授者ハ客ナル被教者ニ向フテ一步ヲ讓
ラサル可カラサルノ原由アルコト恰商估ノ如何的貴重ノ物品ヲ有スルモ
未タ買客ヲシテ之ヲ見セシメサルノ間ハ敢テ之ヲ購求スルヲ望ム可カラ
サルニ均シクヨシヤ全國數万ノ教師中ニハ二三真正ノ教師アルモ其寥寥
乎晨星ノ光輝ノ滿天ニ擴布セサルカ如ク其功益ノ及フ所甚渺少ニシテ世
人未タ指テ教育ノ至大ナル實益ニ染メサルモノ、多キヲ如何セン

然ト謂ヒ天地ノ事物完全無缺ナリ期スルハ最大至難ノ事タレハ我輩ハ世人
ガ教育ノ今日ニ忽諸ニモ可カラサルヲ了解シ其教師ヲ待ツ一層厚カラ
ンコトヲ熱望スルナリ若夫レ然ラサル時ハ識ラズ知ラズ其心氣ヲシテ卑
下ナラシメ其才學ヲシテ非薄ナラシメ遂ニ教師ヲシテ世人ノ吾ヲ待ツヤ
今日ヨリ厚キヲ加フルノ期ハ到底無カル可シ是故ニ如何の才藝德行ヲ高
尙ニナスモ至竟無益ノ事ニ屬スト云ハシムルカ如キハ獨被教者ノ不幸而
已ナラズ今日非常ノ速力ヲ以テ開明ノ區域ニ赴ク所ノ進動モ之カ爲メニ
一頓ス可キ

然リト雖ヒ亦今日ノ教育ハ明治初年ノ教育ニアラスシテ人民智識ノ増進
スルコト雲壤音ナラス加旃教師報賜ノ如キモ之ヲ前日ニ比シ其幾何ヲ増
スニ似タレハ究竟往日ニ在リテ教育者ヲ寺子屋師匠視シ方外視スル所ノ
餘臭ヲ蟬脱シ其ノ尊重シ之ヲ厚遇スルノ好時期ノ至ルハ刮目シテ待ツ
可キナリ故ニ現今教師タルモノ、要ハ只、非常ノ耐忍努力ヲ以テ益學術
德行ヲ高尚ニシ眞正ナル教育ノ實益ヲ圖ルニ在ル而已

家中教育論

杉山重義譯

吾人々類、最モ貴重ナル性質即チ道德ノ感觸モ亦タ大ヒニ家庭ニ於テ幼

穉ノ時ニ受ケタル教育ニ依テ關係ヲ有セリ然リト雖ヒ世上或ハ道德ニ培
養ニ重ニ法教ノ教師ノ職任ナリト思考スルモノ甚シトモ若シ如斯キノ
所見ヲシテ眞ナリトセハ法教ノ教師ハ果シテ如何ナル事ヲナシ得ヘシト
スルカ余輩カ信スルトコロシテ以テスレハ法教ノ教師カ幼兒ノ道德心ヲ培
養シ之ヲ開達スル爲メニ爲ストコロノ事ハ其父母ノ補助タル一部分ニ過
キサルナリ法教ノ教師カ假令ヒ幼兒ヲ教導スル爲メニ非常ノ力ヲ盡スモ
多クハ其成功ヲ見ル能ハサルハ抑モ亦タ何等ノ故ナレヤ家中ノ教育ニ於
テ適當ニ之ヲ助ケルモノナキニ由ルナリ試ニ思ヘ假令ヒ教師カ一週日ノ
間僅カニ二三ノ講説ヲ爲スモ幼兒ノ解得スルモノ敢テ多シトモサレハ何
ソ只ク之ヲ以テ道德心ノ培養ヲナスモノト云フヲ得ン必チ家中ニ於テ之
ヲ爲サ、ル可カラズ然ラサレハ畢生之ヲ爲サスニテ終ンノミ且ツ家中ニ
於テ母ノ爲ストコロ最モ多シトス

余輩ハ此感覺ニ適當ナル教育ヲナスニ付テ他ニ如何ナル好方法ノアルベ
キヤ決シテ發見スルコト能ハサルナリ只ク家中ノ教育ニ依ルノミ世上或
ハ他ノ方法ニ由テ爲ス人ナキニ非ラズト雖ヒ余輩ハ未ダ其功ヲ奏セシモ
ノアルヲ聞カサルナリ即チ幼兒ノ性質ト其性質ニ働クヘキ方法トヲ充分
ニ曉知シテ爲セシモノニ非サルナリ

蓋シ此緊要ナル職掌ハ父母ニ任セラレタリ小兒カ幼キ時ニ於テ其材能及ヒ感覺ヲ顯ハスノ事實ヨリ推測スレハ此ノ教育チ家中ニ於テ爲スヘキハ造物主ノ深意ナルコトハ敢テ疑テ容ルヘキニアラサルナリ且ツ此ノ事實ニ依テ深ク考フレハ余輩亦家中教育チ施コスニ能ク其教育チ受クヘキ人ノ性質ニ從テ爲スコトノ緊要ナルヲ知得スヘシ蓋シ教育ノ真正ノ名稱ヲ受クルニ足ルモノハ只タ之ノ一アルノミナレハナリ

〔以下次号〕

教育上ノ手簡

左ノ一篇ハ近頃檜桓直右君カ其巡回先キヨリ弊社ノ皎々贈ラレタル書簡ニシテ頗ル地方學事ノ景況ヲ知ルニ足レハ録シテ以テ看客ニ示ス

(上畧)生義如今ハ西伊豫地方巡視中今日極南地十佐境域ニ接スル一區ヲ巡視シ了リ宇和島ヨリ四五里計ノ地方ニ到着セリ近日巡接セシ地ハ當縣地方中ニ在リテ僻境ノ最モ僻境故未ダ他ヲ概論シカタクシト雖モ學事モ先ク進動ヲ止メタル姿ナリ尤春來郡區改正カ出ルトカ出ストカノ風説ニテ多少影響モ生セシナラシメ何ニモ教育ノ事ハ郡區ノ改正ノ爲メコアラク然トヤラカスニハ及ハサルニ卑庸懶怠ナル根性玉ノ多キ世ノ中ナレハ之ヲ慨歎スルモ首陽山ニテ登リ伯夷叔齊トテモヤラカ

欠

テ祝詞ニ代ルニ恐惶百拜

府下第二大區五番堂學校生徒

干時明治十一年九月三日

田中龜三郎

國家隆盛ノ基ノ人智開達ニアリ人智ノ開達ハ教育ノ宜シキヲ得テ斯民ヲ
文化ノ澤ニ沐浴セシムルコアル今ヤ我國維新日尙深カラサルモ業已ニ陋
巷偏邑ニ臻ルマテ學校ノ設アラサルナキニ至ラシメ百般ノ學科ヲ敷キ千
般ノ技術ヲ學ハシム故ニ教化四隣ニ普ク及ハサルナキニ至リ以テ今日ノ
旺盛ヲ致ス實ニ賀スヘキノ至リナラスヤ就中我府ノ如キハ其嚆矢ニシテ
生徒日ニ集リ學歩月ニ進ムモ更ニ一層進排ヲ加ヘンガタメ今茲ニ中學
ヲ設立スルノ美舉アリ國家ノ幸福何事カ之ニ如クモノアラン是即チ文運
隆盛人智開達ノ淵源ニシテ其結果近キコアルベシ嗚呼熾ナル哉幸吉辰ヲ
トシ本日開校ノ式ヲ行フニ當リ生等此學ニ就クヲ得タルヲ以テ將來衆生
ト共ニ勉勵努力シテ他日ノ成功ヲ期シ國恩ノ萬一ニ酬フト大依テ欣喜ノ
餘リ謝劣ヲ願ヒス祝詞ヲ呈ス

明治十一年九月

鳥居熊太郎

時機來ラズンハ則チ事トシテ行フ可カラズ物トシテ作ス可カラサルナリ
今ヤ小學ノ設置大ニ備リ既ニ彬々手トメ以テ今日ノ旺盛ヲ極ム是ニ於テ

欠

カ又中學設立ノ儀ニ及ベリ是レ時機ノ然ラシムル所嗚呼又宜ナル哉今爰
ニ明治十一年九月吉日第六番中學開校ノ典擧ラル誠ニ國家ノ美事亦以テ
生等ノ大幸福ナリ其レ安ツ鄙辭ヲ呈シ以テ此盛擧ヲ賀セサル可ケンヤ

第二大區八小區

明治十一年第九月三日

多田久次郎

祝詞

凡ソ文學ノ人智ヲ開達セシムルハ恰モ日光雨露ノ植物ニ於ケルガ如
シ蓋シ日光雨露ノ植物ニ於ケル漸々其發育ヲ助ケテ竟ニ艶麗ノ美花
ヲ開キ善良ノ好菓ヲ結フニ至ル夫レ文學ノ人ニ於ケル亦此ノ如シ苟
モ此人智開達ノ道ナクハ國家富強ヲ致スノ理アラサルナリサレハ
文教ノ治國ニ要ナル素ヨリ論ヲ待タサル所ナリ見且彼ノ唐ノ太宗ノ
如キ其國ヲ治ル初メヤ干戈ヲ以テヌスト雖モ遂ニ文學偉績ハ以テ國家
ノ太平ヲ致スニ至レリト茲ニ辱ケナクモ

明治聖上早クコトニ若目セラレ一タヒ學制ヲ頒布セラレ僅々ノ霜星ナリ
ト雖モ教化四陲ニ偏テク其餘澤ノ大ナル誰レカ以テ感慨セサルアラ
ソヤ殊ニ我府ノ如キ文化郁々乎トシテ全管ニ普及シ色トシテ不學ノ
戸ナク巨トシテ不學ノ徒ナキニ至レリ又我第二大區ニ一ノ中學ヲ創

置セラレ今日ヲトシ開業ノ典ヲ行ハル豈盛事ト云ハザルベケンヤ冀シハ志學ノ生員
等今ヨリ孜々勉勵奮雪針繩ノ勞ヲ厭ヘ以テ功ヲ積ニ績ヲ重子以テ此校ノ盛運ト共
ニ永ク不朽ニ英名ヲ傳ヘンヲ將來ニ祈望スル所ナリ因テ生等叨リテ謝言ヲ願ニス
以テ奉祝ス頓首敬白

千歲學校生徒總代理

明治十一年九月二日

上等六級生

田中淺吉

祝詞

至矣哉 皇明赫々日月ヲ照ラシ大矣哉 帝德浩々天地ヲ覆フ

今上皇帝文武神聖海内數百年ノ積雲ヲ排シ未ダ幾許ノ星霜ヲ經ズシテ奎運大ニ
開ケ陋巷偏邑所トシテ小學アラザルハナク今ヤ曩ニ野蠻ノ風習爰ニ地ヲ拂ヒ文
化亦大ニ進メリ此ノ時ニ當ツテヤ稍高尚ノ學無ンハアル可カラス故テ以テカ今
茲ニ明治十一年第九月三日ヲトシテ以テ我大阪府第二大區ニ於テ中學校ノ開
設アリ以テ益其學ノ深奧ヲ研磨スル所トス嗚呼至レリ盡セリト謂ハザル可ケンヤ
生等今ヨリ尙ホ勉勵努力精神ヲ秋陽ニ曝シ腦漿ヲ江漢ニ濯キ奮雪ノ功ヲ積ン
テ我國文化ノ一端ヲ裨補シ以テ此ノ浩思ノ萬一ヲ報酬センコト是レ生等カ情素
ノ企望スル所ナリ故テ以今日ノ開校欣悅ニ堪ヘズ聊卑言ヲ陳ヘテ以テ祝ス頓首敬白

第二大區九番千歲校生徒總代理

上等八級生

松井與三郎

苗ニシテ秀テサルモノアルカ秀テ實テサルモノアルカトハ古先哲ノ確論ナリ抑我阪府各區小學校ヲ興セシヨリ爾來僅ニ數年就學生ノ日ニ増殖シ月ニ進歩スル宛モ彼瀛車ニ駕シテ鐵路ヲ馳驅スルカ如シ就中其俊秀ナルモノニ至テハ夙ク既ニ小學校ノ業ヲ卒業シテ膝ニ足テ企テ中學校ノ設立ヲ熱望ス是ニ於テ乎公議ヲ攬リ衆思ヲ集メ今明治十一年九月三日キトシ第二大區蘆池嶺ニ於テ中學校開業ノ式ヲ行フ其舉ヤ素ヨリ政府ノ恩賜教育有司ノ盡力ニ因ル、雖モ亦兒童學術ノ進歩之カ期ノ趣スノ致ス所ナラサルヲ知ラシヤ嘻自今以後該校ニ入ル者與ニ共ニ積善友愛ノ道ヲ盡シ勵精刻苦志操ヲ遠大ニシ品行ヲ真正ニシ誓テ上ハ政府ノ恩賜ニ負カス下ハ衆生徒ノ模範トナリ相共ニ國家ヲ益スルノ實業ヲ見シテ兒今盛典ノ末班ニ列ルノ榮ヲ得テ欣喜滿腔ニ溢レ思ハハ蕪詞ヲ吐露シテ祝意ヲ表ス

第二大區第十番大寶學校生徒

大崎 幸四郎
十二年九月

祝文

今ヤ文明ノ國ニ於テハ舊染ノ陋習ヲ看破シテ數百世ノ衰運ヲ挽回ス之レ他ナシ習學制ヲ布大ニシ文明開化ノ域ニ進マシメ其學問ノ隆盛ヲルル日ニ月ニ新ニ遷リ駭々トシテ日ノ昇ルガ如シ此レ皆明治天皇ノ恩澤ト教育トニ因ル歎其學術工藝ノ巨大ナルヲ萬國ニ振起セ。而ノ又新ニ此中學ヲ開設シ其生徒ヲシテ一層勉勵心ヲ起サシムルモ上意ヲ治教ニ止メラ

ル至レリ盡セリト云ツベシ嗚呼學制能行ハレ仁者國ニ滿ソト焉ソ夫盛ナル哉我此校ニ昇リ德澤ヲ蒙ル他日結菓ノ功ヲ奏シ開化百萬分ノ一モ報セント欲ス唯願愛助セテレノヲ就テハ今日此盛典ニ逢何ノ幸ヒカ此ニ如シ故ニ節言ヲ呈シ謹而祝ス

十一番道仁學校

木下卯之助 百拜

祝文

夫國家ノ盛運ハ人民ノ才智ニ源シ人民ノ才智ハ教育ノ淳良ニ基ス嗚呼宜哉今ヤ我國率土ノ濱ニ到ル迄學校ノ備ハラザルナク荒山破驛 間ニ到ル、雖モ皆然リ故ヲ以テ學術日チ追ヒ月チ逐フテ隆盛ヲ極メ英傑涌出ス我輩此隆世ニ生ル何ノ幸福カ之ニ若ク者有ラシヤ夫本日當中學開業ノ令辰タリ郁文ノ化實ニ熙々ノ春臺ニ上ガ如シ他日人才ノ養成シ得ルヲ有テ以テ傑士ノ出ルヲアラサルヲ知ラン因テ祝文一章ヲ呈ス恐惶謹言

第六番中學生徒

高辻 樽藏

雜報

○今度當府應第五課ニテ各小學校生徒へ下附セラル、就學牌ハ圓形ニシテ上等小學卒業生徒ニ與ヘラレル牌數五萬小學生徒へ與ヘラレル數七萬ナリト

○鹿兒嶋縣下ハ客年ノ西郷騒動ニテ概シテ烏有ニ屬セシヨリ諸學校モ隨ツテ兵燹ニ罹リ跡方モナクナリシガ平定ノ後岩村縣令及ビ渡邊大書記官ニモ痛ク之ヲ惜ミ往々復歸セシモ獨リ師範學校ノ設ケハ未ダ之アラザルニ今度新ク之ヲ設ケシガ生徒モ増加シ學業日ニ盛大ニ至リシニヨリ去月廿七日ニ於テ越ニ開業ノ式ヲ行ヒ令書記官ヨリ御用掛リ縣官區長マデ一同臨席アリ學區取締各小學校員モ出席アリテ頗ル隆盛ニシテ縣令並ニ校長教員生徒迄ノ祝文アリシガ今縣令ノ祝詞ヲ左ニ掲ク

人民ノ教育ハ國家開明富強ノ本ニシテ而シテ師範學校ハ其教育方法ヲ善美ナラシムル所ナリ師範學校設立ノ事豈一日モ緩スヘケンヤ是ヲ以テ亂餘多事ノ日ニ於テ夙ニ此土木ヲ興シ爰ニ建築功竣リ開業ノ式ヲ行フヲ得タリ予此舉ノ縣下人民福祉ノ源タルヲ祝シ且諸君ノ彌其事ヲ勉メテ怠ルコトナカラシテ望ムト云フ

明治十一年九月廿七日
鹿兒嶋縣令岩村通俊 (右二件大坂日報)

○近頃いどいふ氣候の據梅だの無正矢鱈お書畫會が流行で今日は何樓明日は何樓といふよみあぐあいの大概毎日位におざり升が随分結構をこにて狂言淨瑠璃を遊の流行とはとても同日の論をばおざり升せんが願くはモット實學問が流行すれば國家の幸福をあらふのと存し升

○近頃東京の慶應義塾をば毎月二度つ、社中社外と論ぜせ人をもよせて福澤先生が自分の著述せられし書物の講釋をせらる、様子をそりまご當府下にはかような講談會杯の流行して來ませんがチト前にいふ書畫會の流行とゆいあぐも此流行の方へ分つらよらふと存升

○或る縣ての過日文部省より御下附おまつゝ物理器械お澤山損しおある故修膳料も文部省より御下けにゐるに違ひないこく伺出さとの出るとおの咄しこんな伺う出さる文部のお役人様もよく注意する縣官と思召すあるべし

○何處でも地方ての今ノ教則と不便なる人情あるか教育事務のお役人に屹度能死お見込の澤山あるべしと信す

○ろろく中學の風吹て來さぐ又外面ばかりての困る眞お中學の先生がそふ澤山あるか堂だの

○佛蘭西のある究理學者が近頃決して銅には毒のあいといふと發明し當人之勿論ろの弟子も長く銅器の内へ入れ置き考るものを喰へさせて試みし少しも當あつたと云ことを過日横濱の西字新聞より翻譯して各社の新聞にも出て居り升いたかチト信仰の出來にくく發明で長く銅器の内へ入れおさく眞青にあつたるもの杯を喰へる試験等と先眞平を御座い升た何分西洋人の學問に骨と折つて身命をも忘れる位にやるのち感心く

せうも亞細亞人にはふるいふ憤發心の少ひ様をすこれぶのら赤鬚さんの
無暗お意張るのも乍残念仕方がある
○府下西口邊の小學校よては近頃議論か起つて三校合併するといふ評
判をそつらどふいふ又議論の起るののと探訪してとぎさの成程奇妙な名
論で教育學者未發の議論ともいふへい閑話休題その議論の旨趣は全く三
校と一緒に合併すると云譯まてのあく只生徒を合併し等級お因てあるの
甲校彼をい乙校といふ並梅にやらかすとのろさの出来ぬとか大分紛紜否
討論もある様子成程此都合に合併することか出来ぬの大坂市中も何區の
學校の何町學校たのといふ澤山を學校かあくとも第一級學校より第八
級學校まを都合八校にて充分に教育の出来無便利至極な事で御座りま
よふこんお妙ふ工夫の西洋の名高に教育家もまぶ知りますといされとも
ろの生徒の父母の等級の都合で内の息子々今迄より遠い學校へ出さけれ
のからぬよふにあつて下駄のちびる丈けでも損な杯と氣樂ふ心配を致
し居るものも有り、升すとか何分世か開々ると種々奇妙な新趣向が出来升
す今お日本中一つで足る様を學校の出来るよふを工夫か出来升ら何より
結構然し若しそふあつたら下駄のちびる位を心配してそまますまいから
今度の風船か何かの工夫から先ッやらうさあたりやありますまい

稟告

讀岐中條澄清譯述

代數學教授書卷之一

八月一日ヨリ發賣

此ノ卷ハ代數學ノ旨意諸命名各種記
号ノ用法代數式記法正負ノ性質公理
等ヲ詳説ス

代數學教授書卷之二

近刻

此ノ卷ハ加減乗除及ヒ乘算ノ公積除
算ノ公理負指數零累乘等ヲ詳説シ就
中加減乗除正負ノ變化ハ最モ深切ニ
解セリ

神戸相生橋東詰 鳩居堂

大坂心齋橋通 松村九兵衛

東京大傳馬町 東生龜次郎

西京寺町四條 田中治兵衛

但シ卷ノ一六月中發兌ト本紙ヲ以
テ廣告致候得共彫刻運引ニ付廣告
期限ニ後レ不都合不少謹テ五待兼
ノ諸君ニ謝ス尙卷ノ二ハ現今校合
中ナレハ精々至急ニ發兌可仕候間
偏ニ御愛顧是祈ル

花紋 學校用墨汁 各種
賞牌 上製墨汁

右ハ岡本則録天野皎ノ兩君大坂官立
師範學校在勤中墨ヲ磨ルノ迂遠ニ
シテ冗贅ナル時々費々且ツ教場ノ休
裁ノ整頓セサルヲ患ヘ多年ノ工夫ヲ
以テ新製セラレタル墨汁ニシテ其色
澤ハ些モ在來ノ墨ニ異ナラス其學校

用ハ甚廉ニシテ且生徒磨墨ノ勞ナク
 上製ハ其色温然トシテ却テ唐墨ニ勝
 ル風致アリ文人墨客ノ多數ノ墨ヲ要
 スルモノニハ甚便ニシテ且廉ナリ右
 何レモ無味無毒ニシテ決シテ惡臭ナ
 シ右ハ大坂西京博覽會へモ差出シ置
 候間御實檢可被下候
 右ハ一昨年來開店致居稍ク世人ノ實
 檢ヲ經實益判然致シ從テ賣捌所等深
 山取設置候新規賣捌御望ノ方ハ製造
 本局へ御申越被下候ハ賣捌規則差
 上可申候

明治十一年三月

大坂府下網島町二番地
 墨汁製造所本局

齊藤精九郎

社告

敝社も急るべく相成り候故當新
 聞今回より一月毎一回に相縮
 め申候乞舊あよつて愛顧を玉へ
 前金并是迄の代價未だ御送致之
 ち御方ハ乞至急進取社へ投玉へ
 十月

教育新聞社
 賣捌事務進取社謹白

教育新聞

定價〇一部三錢五厘五部
 十四錢十部廿五錢〇府外定價郵稅共ニテ
 一部四錢五厘五部十九錢十部三十五錢
 〇毎月一回發兌

大坂網島町二番地

假本局

教育新聞社

大坂心齋橋筋二丁目四番地
 賣捌事務取扱所 進取社活版局

編輯兼印刷

天野 皎

終